

さよなら、美術館。



# 驚異の部屋の私たち

# 消滅せよ。

2026  
4/25(土)  
—  
7/20(月・祝)

— 森村泰昌・ヤノベケンジ・やなぎみわ —

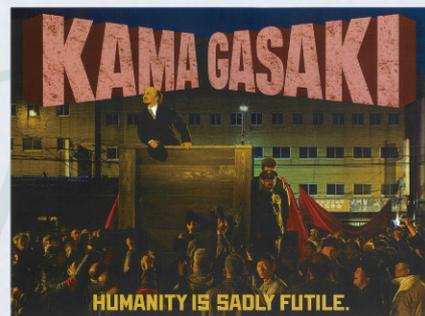
大阪中之島  
美術館

# なぜこの3人??

## 森村泰昌

Yasunasa Morinura

1951年、大阪市生まれ。大阪市在住。1985年に初めてのセルフポートレイトの作品《肖像／ゴッホ》を発表する。以降、「わたし」という一貫したテーマのもと、「なにものかに扮するセルフポートレイト写真」を発表し続けている。その制作は、モチーフとなる人物／作品について、念密なりサーチとジオラマ、スタジオセットの作成、コスチュームやメイクなどの過程を経るものであり、独自の視点から対象に迫ることによって、作品が完成する。また、映像、パフォーマンス、執筆など多岐にわたる活動を行なっている。



森村泰昌《「Museum of Contemporary Art, Osaka」のための原画》2025年

## ヤノベケンジ

Kenji Yanobe

1965年、大阪府茨木市生まれ。1990年代初頭より、「現代社会におけるサヴァイバル」をテーマに機能性を持つ大型機械彫刻を制作。ユーモラスな形態に社会的メッセージを込めた作品群は国内外から評価が高い。2017年、「船乗り猫」をモチーフにした、旅の守り神《SHIP'S CAT》シリーズを制作開始。2022年に開館した大阪中之島美術館のシンボルとして《SHIP'S CAT (Muse)》(2021)が恒久設置される。



ヤノベケンジ《SHIP'S CAT (Muse)》2021年  
©Kenji Yanobe  
写真提供: KENJI YANOBE Archive Project

## やなぎみわ

Miwa Yanagi

神戸市生まれ。女性をテーマにした写真作品で個展多数。2009年ヴェネチア・ビエンナーレ日本館で個展。2010年より舞台作品を創作し「1924三部作」を美術館と劇場で上演。「ゼロアワー 東京ローズ最後のテープ」で北米ツアー。台湾製の特殊車両による野外巡礼劇「日輪の翼」(原案・中上健次)を開始。2019年、個展「神話機械」で機械と演者が共演する「MM」を上演。21年には日台共同制作で台湾オペラの演出も手掛けた。2025年は六甲ミーツ・アートにて水上劇「大姥百合」、BENTEN Art Nightの歌舞伎町能舞台にて「黄泉平坂 排斥と遊戯」を上演。



やなぎみわ《Juggling with Peaches I》2024年  
撮影: 守屋友樹

## 協働か、衝突か、現代美術を揺さぶる三角関係。

森村泰昌、ヤノベケンジ、やなぎみわが大阪中之島美術館に集結! 国際的に活動しつつ、時に交錯してきた彼らが、2026年、万博のポストイヤーに再び邂逅します。なぜこの3人が集まるのか。そのタイトルは何を意味するのか。さらには、「消滅せよ。」という言葉の先には何があるのか。新作を中心に構成される本展は、同時に作家それぞれのこれまでの活動が凝縮された「驚異の部屋」となります。ときに協働し、ときに衝突しながら、絶対的に孤独な表現者として個々の作品世界を美術館という舞台でぶつけ合います。

# 2026. 4.25開幕

続報は公式サイトで  
ご確認ください。

大阪中之島美術館

検索



大阪中之島  
美術館  
NAKANOSHIMA  
MUSEUM OF ART,  
OSAKA

## ※消滅する前にご鑑賞ください